column

学生の廃棄物に対する意識と行動



埼玉大学大学院理工学研究科教授
河村 清史 KAWAMURA Kiyoshi

プロフィール
前 埼玉県環境科学国際センター研究所長。中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会浄化槽専門委員会委員、同水環境部会総量削減専門委員会委員などを歴任。
現在、廃棄物資源循環学会評議員、(社)日本環境衛生施設工業会理事など。

大学では教師と学生の双方向からの授業も望まれている。学生の廃棄物に対する意識と行動を知る目的も絡ませて、博士前期課程の学生に、廃棄物の発生回避・抑制、リサイクルについて、生活の中で実施していること、やろうと思えばできること、実施するうえでの問題点や改善点を発表させている。

今年度、日常生活を対象とした学生が13名いたが、発表内容をキーワード的に紹介する。実施していることとやろうと思えばできることを区別せずにまとめた。学生数は少ないが、過去2年の傾向も類似したものであった。

全員が、買い物でレジ袋を極力もらわないとかマイバッグを持参するとしている。また、レジ袋をもらう場合は、ごみ袋や小物の整理用に利用するとする学生もいる。マイバッグについては、予定した買い物でないと持ち歩きにくいとか、意識していないと忘れてしまうことも事実のようである。エコ袋の利用がエコであるかどうかは、難しい議論とする意見もあった。スーパーでアルバイトをしている学生によると、マイバッグ持参率はグループ全体で22%、アルバイト先店舗で14%であり、社員やパートの人と家族連れの常連は、持参率が高いとの印象だという。

食べ物については3名がふれ、食べられるものは食べる、料理で野菜を無駄がないように使う（女学生）のほか、自分にできることは食べきることであるとした学生もいた。

商品購入についても多くの学生がふれ、詰め替えができる商品・バラ売り商品・量り売り商品を購入する、調理済み商品の購入を控える、飲み物では水道水を有効活用する（お茶や粉末の利用)、割り箸をもらわない、無駄な買い物をしない、賞味期限が長いものを選ぶ、などがあった。量り売り商品や詰め替えができる商品が少ないとの不満もあった。

意外なのは、紙に関するものが少なく、両面印刷が1名、裏面利用が2名、古紙回収の利用が1名であり、他の1名は割付印刷の活用とデータ化した文章の利用をあげている。ただし、前者については印字が見づらくなり書き込むスペースが限られる、後者についてはデータ化した物はすぐに見ることが難しいだけでなくPDF等では編集などがほとんど出来ないと述べ、積極的な実施はしていないようである。

発表するということで、たまにしかしないことを日常的にしているかのように紹介した部分があることは否めないであろうことは理解していただきたい。